

外国の賃金圧迫者とインタナショナル

第 39 卷 ノート 《マルクス主義と帝国主義について》 1915—1916年に執筆

2) マルクス主義と帝国主義についてのノート

F. メーリング《カール・マルクスとフリードリヒ・エンゲルスの伝記についての新資料》。
《ノイエ・ツァイト》, 第 25 年 (1907 年)。

《外国の賃金圧迫者とインタナショナル》《ノイエ・ツァイト》, 第 25 年 (1907 年)

《1868 年のブリュッセル大会へ代表を派遣するようというイギリス労働組合への招請状のなかで、総務委員会はつぎのように声明している。

《結社の根本原理は、労働の生産物が労働者に属すること、労働の親睦が社会の基礎を成していること、万国の労働者が資本にたいする闘争においてくだらない嫉視と民族的な反目^{しっし}をふりすて、共通の事業につくすべきであることを教えている。労働は祖国をもたない。労働者はいたるところで同一の害悪とたたかわなければならない。資本は蓄積された労働にすぎない。なぜ労働者は自分自身の生産物の奴隷とならなければならないのか？あまりにも長いあいだ資本家は、労働の子弟の民族的孤立化から利益を引き出してきた。外国の競争は、つねに賃金を引き下げるに都合のよい口実とされている》(511 — 512 ページ)。

《大陸労働者の労働時間が長く賃金が低いことが賃金切下げを避けられないものにしたという、イギリス資本家の不断の叫び声にたいしては、労働時間と労賃を全ヨーロッパにわたって同一水準にする¹⁾ 努力によってしか首尾よく対抗することができない。これこそ国際労働者協会の一任務である》(512 ページ)。

1) 《ノイエ・ツァイト》による強調。——編集者

《これこそ実際に、国際プロレタリアートのなかの有利な地位にある部分の獲得物を確保する唯一の方法である。こういう部分は、少数者を成しているかぎりでは、つねに危険にさらされているのであって、しかもこの少数者がプロレタリア大衆の多数者とくつきり対立すればするほど、こういう危険は大きくなる。このことは一国内の大衆にも、また全世界市場の大衆にもあてはまる。後進層の排除、封鎖、抑圧によってではなく、後進層の連帯性と支援により、先進プロレタリアートは自己を主張することができるのである。先進的プロレタリアートがまえの方法の近視眼的なツンフト根性の影響をうけているところでは、そういう方法はおそかれはやかれ破産し、またそれは始めからプロレタリア解放闘争を麻痺させるもっとも危険な手段の一つとなる》(512 ページ)。

NB
(注目)

コメント

先進プロレタリアートは後進層と連帯し、その労働条件の改善を支援しなければならない。